

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372700546		
法人名	有限会社 ベルヴィ		
事業所名	やすらぎホーム金光(1階ユニット)		
所在地	岡山県浅口市金光町地頭下400番地		
自己評価作成日	平成26年3月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3372700546-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3372700546-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成26年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年10月末に市で開催された文化祭に入居者様が色塗りをした花のモザイクアートを出展し好評を得た。今年度は旅行の代わりに、ユニット全員の入居者様と一緒に夕食をする事が出来た。向かい合わせのトイレの両方にカーテンをつけ、プライバシーの保護に努めている。個別ケアを徹底して行っている。1階・2階の出入りにセンサーをつけ、人の出入りがあると、チャイムがなるようにし、利用者様の安全を確保している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「この人はみんな明るくてやさしい。本当に良くしてくれるんですよ。ここで最期まで見てもらいたいので、体は少し不自由だけど、出来る限り自分で歩くようにしています」Aさんは息つく暇も無い位、自分の来た道・ここでの暮らしぶり・思いを延々と語ってくれた。Aさんに限らず、この皆さんは自分の思いをそれぞれの表わし方で思いのたけ表現している。職員を困らせる利用者程いとおしいと言う管理者は、難題をつぎつげられても職員間の連携プレーで笑いにつなぎ、とんちとユーモアでむに巻いている。今朝も訪問者の私達を「今日は私の知り合いのママさんと紹介します」と楽しい一日を予感させてくれた。ここでは1F・2F両ユニットの連携・協力がすばらしい。管理者・職員の息が合い、今日も午前餅つき、午後は雛祭りを一緒に楽しんだ。利用者本人はもとより、家族・地域の方々、そして法人内の他事業所からも頼りにされているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年度、理念に沿ったホームの目標・各ユニットの目標を全職員で考えて、その目標に向かって、業務に励んでいる。	ホーム目標「基本を大事にして丁寧な仕事を行い、安心して過ごせる場を」や各ユニット独自の目標を半年毎に立てて掲示し、全員で共有している。職員は毎日の申し送り時に唱和し、意識の統一を図っている。	理念の共有と実践の為に、外部評価をよく利用しより良いケアにつないでいる事は素晴らしい。特にユニット毎に毎年自己評価の見直しを確実にしているのが良い。目標を具体的に、評価可能な内容にしていけば、さらに次のステップに向かうだろう
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭り、秋祭りに参加させて頂いた。夏祭りでは、開催場所の一番良い席を用意して下さり、ステージで行われた太鼓演奏等を間近で見ることが出来、皆様に喜んで頂いた。	保育園児と一緒に紙芝居を見たり、園児とじゃんけんをして楽しんだ。市の総合文化祭に利用者手作りのモザイクアートを出展したところ評判が良かったので来年も出展しようと思っている。祭りの子供神輿が立ち寄った時、子供の姿を見て涙する人もいる等、様々な形で地域交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	3か月に一度 ホーム発行の新聞‘やまぼうし通信’で、ホームの様子やちょっと生活に役立つ知識等を掲載し、発行している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で初詣に行く予定の話をする、参加者の方から、お寺の紹介をされ、連絡をとって下さり、スムーズに初詣に行く事が出来た。	市の担当者、民生委員、社長、法人職員等の参加があり、活動報告や情報交換をはじめ、運営に関する問題点等を話し合い、活発で有意義な会を2ヶ月に1回、開催している。この議事録を家族にも送付している。	運営推進会議の記録は綿密で分かり易く、送られた家族もよく理解出来て良いと思う。会の持ち方や参加者に関して、前年度からの課題を継続し取り組みレベルアップして欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の認定有効期間について尋ねたり、住所異動について助言を求めたり、と連絡を密にとっている。	浅口市の地域包括のお世話により、市民後見人を活用している利用者がある。後見人の細やかな支援やホームへ頻繁な訪問がある。市の担当者とも日頃から連絡を密に取り、定期的に訪ねて相談やアドバイスを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ある入居者様のベッド柵を外す行為が続き、転落の危険性があった為、家族様に同意を頂き、身体拘束同意書を作成、署名・捺印を頂いた。	ホーム前は交通量の多い道路に面しているが、玄関の施錠はなく外に出たい人には職員が付き添っている。利用者が遠出した場合、1・2Fの区別なく協力体制を取り、手の空いた職員が車で迎えに行く等、日頃から職員間の連携がよく取れている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	目に見えやすい 手や顔だけでなく、全身が見える入浴時に内出血や傷等がないか、注意して観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社の代表と各ユニットの管理者が話合う月一回の会議に於いて、法人後見人制度について簡単に説明したものを、全職員に周知させてもらった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入院時、いつまでこちらに籍がおけますか等、家族の方々がよく質問をされる項目については、反復して説明をさせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3か月に一度、家族様に送るお手紙の最後の方に必ず、「何かご意見・ご要望等がありましたらお知らせ下さい」と書いて、ご意見・ご要望を募っている。	玄関に意見箱を設置し家族からの意見・要望を受け付けている。家族から「シーツ交換の回数」について意見があり、ホーム側の方針を伝えたこともあった。今年度の目標であった家族会の開催は、来年度も引き続き実現に向けて取り組んでいこうと思っている。	今後の課題の一つが家族との関係性や家族の意見の反映と聞いた。家族の行事や運営推進会議への参加やホーム独自のアンケート等、取り組み方は色々考えられるが、可能な事から少しずつ進めてみたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、グループ全体で、各ユニットの管理者と代表者と話し合いの場を持ち、意見交換をし、その会議録を全職員で閲覧している。	法人の全体会議、ユニット会議、ユニット毎のスタッフ会議等様々な場面で情報共有や意見交換をしている。職員から「勤務をフレックスタイム制にして欲しい」等の要望もあり、職員の意見や要望は全体会議で話し合い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	大雪の日、雪で出勤出来ない職員には休んでもらったり、月に一度程、リフレッシュ休暇をもらったりしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同じグループ内で職員が足りないユニットがあれば、余裕のあるユニットの職員がヘルプに行き、他のユニットの利用者様の様子や仕事の進め方等も一緒に学んでもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同職種だけでなく、他職種との連携を深める為の研修会にも参加させてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	こちらお聞きしたい事を聞くのではなく、本人様が話される事をしっかりと聞き、先ずは‘この人は私の話を聞いてくれる、という信頼関係をつくる事から始めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初に家族様に本人様にどう 過ごして欲しいのかをお聞きし、本人様の好きな物・昔の職業・どういった性格なのかをサービス導入に活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お聞きした本人様と家族様の要望、それぞれに対して、このホームで出来る事、出来ない事をキチンと説明し、同意を得て、サービスを始めさせて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ・タオル巻き等の他に何か出来る事がないかを共に考え、試しに今までされた事のないお手伝いをしてもらったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の体調の変化により、定期的に行く病院以外の病院に行くとき、家族様に付き添ってもらい、一緒にその経過を聞いてもらったりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	‘毎日のように会いたい、と言われる方には、遠慮なく会いに来て頂けるように努めている。	本人の希望で職員と選挙に行き「来年のことはわからんなあ。でも行って良かった」と笑顔で話してくれる人、「あの人に会いたい」と知人や友人に会いに行く人、自宅までドライブに行く人等、職員はその人がこれまで大切にしてきた思いや関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	朝の体操時・昼からの歌やボール投げ等のレクリエーション時、一日一回は必ず皆様が集まる時間をつくり、交流を深めてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居され、亡くなった方のお葬式に参列させて頂いた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	いつもは昼食を食べたらすぐに口腔ケアの声掛け誘導を行っているが、日曜日は正午から始まる歌番組に合わせて、番組を観終わって後に口腔ケアの誘導を行っている。	3日に1回息子さんや会いに来る人を見て「あの人はいいなあ」とつぶやくAさんの寂しい心の内を思いやり、職員がマンツーマンでお茶を飲みながら話をする等、細かい心配りをしている。日常の何気ない会話からも“気づき”を大切に、個々に寄り添う支援を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家にいた時、気候の良い時はよく外に出て道行く車を見ていた という方には、同じく気候・体調の良い時は、玄関に出て車を見て頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段お昼寝をされない方でも前日の夜、あまり眠れていないとの申し送りを受けた場合、昼間少しでも眠るように声を掛けたり、誘導をしたりしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態が安定している方は6か月、体調が変化しやすい方は3か月等、その方の状態に合わせたプラン作りを行っている。	毎月カンファレンスを行い、利用者一人ひとりの状態や変化を職員間で共有しながら定期的にモニタリングをしている。本人や家族の思いを尊重しながら、ニーズに添ったプランの作成を職員間で話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様本人だけでなく、家族様が言われた事も記録に残せるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	元々、高齢夫婦、一人暮らしであったが、夫がホームに入居してしまった為、お米が余るようになり、腐らすのももったいないので、もらってくれないでしょうかとの相談があったので、ホーム内で検討し、家までとりに行かせて頂いた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節毎に、市の社会福祉協議会に入居者様の名簿を送り、全員の入居者様宛に手作りの絵葉書を送って頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	いつも行っている病院以外に、他の科・他の病院に行つて欲しいと言われる場合は、出来るだけ希望に沿った科・病院が受診出来るように支援させて頂いている。	従来からのかかりつけ医を受診している人もおり、原則家族に付き添いをお願いしている。緊急時や家族の支援が難しい場合は、職員が同行しているが、利用者と1:1のコミュニケーションを図れる良い機会と捉え、受診もまた、楽しい時間となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	排便の間隔が空いている場合・利用者様の特変があった場合、その日看護師が出勤でなくても、随時連絡を取り合い、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、その方の詳細な情報を提供し、退院時はなるべく早くホームで過ごして頂ける様、日程を調整させて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	退院後、著しくADLの低下がみられた方に対して、これ以上のADL低下を防ぐ為に何が必要か、どういったケアを行っていくかの話をさせて頂いた。	今年度も一人看取りを行なった。本人の食べられるものが極端に限られていた人だったが、朝方、日勤の職員が来るのを待っていたかの様に旅立った。身寄りのないこの人の近所の知人が葬式を出し、職員達にも「世話できて良かったね」という達成感が残った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	尻もちをついた時等、比較的軽微な事故でも、看護師に連絡いれ指示を仰いでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	朝の申し送り後、必ず「火災発生時の対応」を全員で唱和し、いざという時、自然に体が動くようにしている。	年2回避難訓練を実施しており、消防署立会いの下、指導も受けている。避難用具としてソフト担架(背負う物)を購入する予定にしている他、外に非常階段を設置する話を住宅メーカーと相談中である。また、災害マニュアルも検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	向かい合わせとなっているトイレの前にカーテンをかけ、車椅子の乗り降り時等のドアの開閉時も見えにくいようにしている。	個別の対応を心がけ、名前の呼び方は家族に了解を得て、本人が望む呼び方をしている。プライバシーや羞恥心に配慮して1Fではトイレにカーテンをつける様にしたが、2Fでは利用者から「必要ない」との意見があり、つけていない。職員は利用者の自主性を重んじ意見を尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	10時と15時にお出する水分は何か良いか、普段あまりホームではお出する事のないものを出す時、その食べ物は食べれるかどうかをお聞きしたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	いつもはお昼寝される方にも、毎日「今日はどうしますか、と声を掛け、部屋で寝るか・リビングで皆様と一緒に過ごしてもらうかを決めてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	既成品の服だけでなく、家族様が手作りされた服を着て頂いて、その方らしさを醸し出してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同じ献立でも、その方が好きなおかずが出た場合は皆様より少し多めに入れたり、その方が食べれないものを、予め、食材屋さんに伝えて別のオカズを用意させてもらったりしている。	イベントの日はウッドデッキでオードブル形式やバイキング形式の食事等、趣向を凝らし楽しんでもらっている。昔は砂糖が貴重品であり、甘酒とお汁粉は年中飲める大切な飲み物だったそうで、利用者から要望の多い飲み物だと聞いた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	研修で学んだその方、一人一人の1日の水分適正量を計算し、それを一つの目安として日々飲んで頂けるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で磨ける方でも、汚れや臭いの確認だけでなく、出血がないか・義歯が合っているかどうかの確認も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員同じ間隔の声かけ・誘導ではなく、短い方・長い方、各入居者様に合わせてトイレの声掛け・誘導を行っている。	2Fは排泄が自立している人が多い。1Fは排泄チェック表で個々のリズムを把握しながら声かけ誘導している。表情や動作で判断したり、時間ごとに誘導する等、一人ひとりに合った方法で個別ケアをしている。パット等使用製品の検討もしながら、出来る限りトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促す果物やヨーグルト飲料等を飲んで頂き、自然な排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	湯船に入れる方には湯船に入って頂き、立位の困難な方には、シャワー浴をさせて頂いている。	基本は週3回、午後入浴としているが、風呂好きな人は毎日入っている人もいる。自分が一番に入りたい人が数人いて、職員は順番や時間の調整をしながら「一番風呂」を提供できる様に工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	‘就寝する少し前にエアコンをつけておいて欲しい、‘喉が渇くから、常に側にお茶を置いておいて欲しい、等、その方の要望に合わせて、心地良く休んでもらえるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調の変化等でいつもと違う薬が処方された時は、全職員にわかる様に申し送っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一見壊れている様な虫眼鏡でも、‘今まで家で愛用してきたのでまだ使いたい、との事で新聞を読む時に使っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	病院受診時、その方の家の近くを通る事があるので、可能な時は、自宅に寄って安心して頂いている。	利用者の希望する店へ数回に分け小グループで外出に出かけた。定番のうどん、寿司の他、本格的なフランス料理の店に行き、久しぶりにナイフとフォークでの食事を満喫した人もいる。買い物やドライブ等、家族にも協力をお願いしている。天気の良い日はホーム周辺の散歩に出かけている。	利用者の心身の状態が比較的落ち着いた今なら、行事や日常の外出をもう少し考えられるのではないかと。ほぼ全員で、2～3人連れ立って、家族も誘って等、色々な形を工夫して少しでも考えてみたい。今がチャンスかもしれない。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様の了承を得て、一緒に買い物に出かけ、御自分で必要な物を選んで頂き、買い物の楽しさを思い出して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様からお電話がかかってきて、本人様と変わって欲しいと言われる時、本人様に直接出て頂き、話をして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車椅子が入れる洗面台がもう一つ出来たので、その二か所を使って頂き、以前よりゆっくりと口腔ケアをして頂けるようになった。	毎月1回恒例の茶話会を行い、手作りのおやつで喫茶店の雰囲気を感じ利用者に喜んでもらっている。天気の良い日はウッドデッキで日光浴・外気浴・外食等を楽しんでいる。日頃から1F・2Fの利用者の交流も多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	耳の聞こえにくい方、話が上手に伝えられない方、それぞれ職員が仲介に入り、会話の橋渡し、交流を深めて頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	誕生日会や行事等でプレゼントさせて頂いた物も、お部屋に飾らせて頂き、家族様が来られた時見て頂いている。	男性演歌歌手の大きなポスターを貼り、優しい笑顔に癒されると言う人、家族が持ってきた韓流スターの写真やポスターを貼っている人、カレンダーに自筆で予定を書き込んでいる人、部屋の壁も手作り作品や家族の写真に負けないくらい華やかだ。その人の好みでスッキリしたシンプルな部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	薬品や洗剤等は入居者様の手が届きにくい・目につきにくい場所に置くように努めている。		